

那覇市立病院の地域癌拠点病院としての取り組み

基本的には、地域癌拠点病院として提供を求められている医療を提供する体制を構築することを意識した取り組みを行っている。

今回、拠点病院の更新に当たって、当院の提供体制が弱いと考えている、緩和ケア外来の充実を図るための体制整備に取り組んでいる。

また、以前より取り組んでいるが、COVID-19 のパンデミックにより、ここ数年取り組みができなかった、がん患者の就労支援のための講演会開催に向けて準備を進めている。

さらに、新要件にて 2 次医療圏におけるがん医療の質の向上、医療の提供に責任を持つことが提示されたため、その実現に向けての方策を検討しているところである。

院内職員への拠点病院職員としての事業内容の周知、理解、意識の啓蒙に関しては、引き続き取り組んでいきたい。

当院ががん対策で取り組んでいる事項

1) 化学療法室の充実

稼働ベッド数の増加 6床→10床 化学療法室の増築

化学療法延べ患者数 1260(2021年)→1308(2022年) 調剤件数から

認定看護師の常勤専従化

2) 地域連携センター開設

相談員配置

沖縄県立八重山病院における癌対策の取り組みについて

当院では、地域がん診療病院として、医療圏内に提供を求められている医療体制の構築、医療の実践に注力している。令和4年度は、特に、地域との連携の強化に取り組んでいるので、その内容を報告する。

(1) 化学療法委員会の取り組み：化学療法に携わる医療従事者の連携強化

当医療圏内では、3病院（石垣徳洲会病院、かりゆし病院、県立八重山病院）が癌の化学療法を行なっているが、情報の共有はほとんど行われていなかった。最近、他院で化学療法を行なっている患者が、化学療法の副作用と思われる症状で当院救急を受診すると云うことがあり、情報共有の必要性に対する認識が高まった。化学療法に携わる3病院の看護師、薬剤師の合同カンファレンスが、2023年2月3日に計画されている。これを契機に、医療圏内で化学療法に携わるメディカルスタッフの情報共有、連携強化に継続的に取り組んでいく計画である。

(2) 緩和ケア委員会の取り組み：ケアに携わる医療従事者との連携強化

がん患者の在宅での療養や看取り、施設内での看取りが増えてきており、訪問看護師、施設で働く看護師、ケアマネージャーなども、がん患者のケアに携わる機会が増えている。緩和ケアを中心に以下の研修会、カンファレンスを行なった。

- (イ) 地域の医療機関のメディカルスタッフを対象とした、がんの専門知識・技術の習得のための研修会の開催（外部講師も招聘）
- (ロ) 老健施設での看取りの勉強会、デスカンファレンスの開催
- (ハ) 養護施設での AYA 世代のがんに関するカンファレンスの開催